

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0272000324		
法人名	社会福祉法人徳寿福祉会		
事業所名	社会福祉法人徳寿福祉会 陽だまりの家ひまわり		
所在地	〒039-3332 青森県東津軽郡平内町清水川字権十郎新田8		
自己評価作成日	令和2年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年11月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により面会制限を設け、現在も入居者への感染症防止対策に力を入れている。また、職員の感染防止対策を図り、毎朝ミーティング時に職員の体調確認を行い、入居者への感染防止に努めている。</p> <p>・行事計画の取り止め等がある中で、施設内や近隣でできる事を職員間で模索し実践中。隣接する施設へ職員と入居者が訪問し、他の利用者との交流や温泉に入り楽しんでもらえるような取り組みを実施中。また、コロナ禍で少しでもQOLを高める事ができるように、天気の良い日には散歩やドライブを実施。施設内では入居者さんにおやつ作りを手伝ってもらい、いつもとは違ったおやつを食べて、喜んでもらえるように取り組んでいます。</p> <p>・各居室へは、見守り支援センサーを設置し、事故回避と万が一事故が発生した場合でも今後の対応へと繋げることができている。</p>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

<p>通年であれば普通に行っていた面会も出来ない状況の中で、夏場に戸外にテントを設置し、面会を実施するなど入居者、家族の気持ちになって取り組まれている。又、職員が認知症について勉強を重ね、よりよいケアについて日々、ケアの振り返りと話し合いを行い、基本理念にある「じっちゃ、ぱっちゃを自分の身内と思い接し、毎日笑って暮らせる家にしよう」を大切にし、実践している。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から、事業所独自の理念を大切に、守り続けている。	理念はいつでも目につく場所に掲示されており、「身内と思って接する」を基本に、人生の先輩である事を常に意識しケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、地域の町内会や小学校、保育園などで開催される行事がある際には、地域の方と連絡を取り合い、積極的に連携を図っている。しかし、今年度は、コロナ禍により、ほとんどの行事が中止の状況が続いている。新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら地域との交流やつながりを持てるように調整していく。	住宅地からは離れた立地となっているが、地域の小学校や保育園などから、行事の案内を頂き参加している。車椅子での参加など、事業所の状況も理解され、地域の方々との日常的に交流があり、良い関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の町内役員や民生委員とは、運営推進会議の時間を活用して相談を受け、対応について話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、毎回課題を掲げ活発な意見交換を行っている。その中で様々な意見を頂きサービスの向上へと活かせるように努めている。	2ヶ月に1回開催され、民生委員や行政担当者、家族などが参加されている。活動の報告の他にも、介護について排泄用品や介護機器などについても取り上げ、理解を深めてもらえるように努力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1度開催される運営推進会議へは、行政も出席し、アドバイスをもらいながら協力関係を築いている。また、対応が難しい内容等、相談支援の協力関係を築くことができている。	運営推進会議の参加だけでなく、日頃より良好な関係にあり、困難な事例など相談できる関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、身体拘束はいけないという認識を持ち、束縛しない自由な生活ができるよう支援している。また、職場内で身体拘束についての勉強会も開催しケアに取り組んでいる。	居室で過ごしている入居者に対して、頻繁な居室訪問は、プライバシーや自由な生活を損ねているのではないかと、自分に置き換えて考え、見守りシステムを導入している。プライバシーを守りながら、安心、安全に過ごせるよう取り組んでいる。職場内でも、年1回勉強会を開催し、全ての職員が身体拘束をしないケアへの認識を持つよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々、ケアに当たる際には、小さな傷や内出血等を見過ごすことなく全身観察を行っている。また、発見した時には、原因を探り報告書へ記載、情報を共有し、家族面会時に報告するなど常に虐待を意識し業務にあたる事ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内の勉強会で、権利擁護について学ぶ機会を設けている。また、令和2年10月まで社会協議福祉会の日常生活自立支援事業を活用している入居者もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、質問を促しながら行い、質問点に答えている。改定等の際にも同様に行っている。契約解除の際は、十分説明をした上で、次のサービスへと繋げ理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の説明以外にも、毎月請求書を送付する際には、苦情窓口の案内も行っている。また、家族面会時は、入居者とのコミュニケーションを大切にし、気軽に話せる雰囲気作り、信頼関係作りに努めている。意見や要望があった際には、対応策を検討し、その後の経過等も家族へ伝えている。	入居者の声に耳を傾け思いを運営につなげている。家族の面会時には、生活状況を報告しながら意見や要望を伺っている。意見や要望に対しては職員間で検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、リーダー会議、職員会議の中で意見交換を行っている。また、それ以外に職員から出た意見は、主任が管理者へ報告し反映させることができている。	会議に参加できない職員からは、事前に意見を聞き取り、毎月の職員会議やリーダー会議で意見の交換や話し合いがされている。職員からの提案で、福祉用具を導入するなど、意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々人との面談の機会を設定し、努力や実績及び要望等の把握に努めている。目標や研修・勉強会への参加などにより向上心を高める取り組みを行っている。優良な勤務実績・能力のある職員に対し、待遇面で評価することを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職場内で勉強会や外部の研修会に参加する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係団体を初めとする各種の外部研修に参加し、他施設と意見交換や交流を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談の段階で、本人から想いを引き出せるような会話を心がけ、想いを汲み、安心できるような話しかけ、対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の相談の段階では、家族の思いを傾聴し、想いを汲み取り、不安感を軽減、解消できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込の際には、待機しなければいけない場合は、他の施設への申込やサービス利用への説明等も合わせて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、家事作業など出来ることを最大限発揮できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは、常に対応についての相談や話し合いを行い支援している。本人にとってより良いケアができるよう相談支援を行っている。時には、家族へケアの部分で協力を頂きながら共に支える関係を構築することができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナ禍の為、馴染みの人に会う事や地域で開催される行事が、数多く中止となっている。本人の大切にしてきた気持ちに少しでも応えられるように、地域でも限られた行事に参加したり、ソーシャルディスタンスを厳守しながら馴染みの人と会って話ができるように調整している。	同じ敷地内にあるサービスセンターへ行き、距離を保ちながら以前一緒に通っていた馴染みの人達と会い、会話を楽しんでいる。又、「駅を見たい」などの希望があった時は、対応するなどして気持ちを大切に、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の気の合う仲間・共通の話題や趣味に合わせ、一緒に外出したり、座る場所を変えるなど工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域性がある為、退居後でも家族と行き会う機会が多く、その時には声をかけてどうしているかの状態を聞くよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から利用者のニーズを引き出し、希望に添えるような対応に努めている。	普段の会話から、思いや希望をくみ取るように努めている。誕生日会の時など、好みや食べたい物を聞き、メニューに取り入れるなど、思いを伝えやすいように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを実施し、全職員で情報を共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態や有する能力等、日々の生活の状況を観察し、情報を共有しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を観察し、基本ヶ月に1回カンファレンスを行っている。また、変化に応じてカンファレンスを開催している。ケアについては、入居者本位に視点を向け、意見交換や対応について検討している。また、必要があれば医療とも連携しながらケアプランに反映させている。	普段の会話や生活から本人が安心して暮らすためについて、職員間で話し合い検討している。又、家族の面会時には、家族との会話も心掛け、思いやケアのあり方について、意向を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に施設サービス計画書に沿った記録を取ることで、実施状況や内容が把握でき、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつでも居室、宿直室が空いている時には、ショートステイ、緊急ショートステイとして利用できるような体制は整えている。また、認知症の相談窓口として活用してもらえるように呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での学校や町内会、民生員、地域の方々と交流の機会を設けていたが、コロナ禍により地域の方々と触れ合う機会が困難な状況に有る。唯一、地域で開催される町民文化祭に参加し、地域の方々と触れ合う機会、関係性を築くことができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は、協力医療機関を勧めているが、強制ではなく、本人や家族の希望にできるだけ応えるように支援している。その他の受診に関しては、在宅時の受診を継続できるように支援している。	協力医療機関についてや、希望するかかりつけ医の受診について、家族に説明を行っている。協力医については、2週間に1回往診に来て頂いている。検査など、受診が必要な時は、家族の協力を得ながら受診を行っているが、必要時は付添いもしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診に来て頂いている協力医療機関の看護師へ毎日バイタルサインを電話で報告、FAXを送信している。必要時には、その都度連絡をして指示を仰ぐなど協働することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院を訪問し地域医療福祉連携室、相談員と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期を迎える前に、事前に家族や本人の意思確認を行い、早期に医療機関や家族、事業所と話し合いの場を設け、ここでできることを明確に伝え情報を共有しながらチームで支援している。その後は、職員間で対応を検討・情報を共有しながらケアを行っている。	入居時に事業所で医療的に出来る事と出来ない事を明確に説明し、情報を共有している。状態変化時など、家族の思いも大切に、その都度確認をしている。協力医から説明が受けられるなど、チームで支援できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し、入居者の急変時や事故発生に備えている。全職員が定期的に模擬AEDを使い、救命に関する知識を復習し、新しい知識を学び知覚できるようにしている。施設内に緊急時対応マニュアルを掲示している。状態の不安定な入居者に関しては、職員間での情報の共有を行い、急変時の対応ができるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地震や火災、津波警報が発令されたという想定で避難訓練に力を入れている。また、運営推進会議の中でも災害時を想定し、入居者を避難させるために協力を得られるよう緊急連絡網を作成するなど相互協力の体制を整えている。	毎月、避難訓練を行い、全職員が訓練に参加できるようにし、夜間の勤務でも不安のないように努めている。実際の火災時の状況を考え、限られた人数で避難する為の方法などを実践し、その結果について、職員間で話し合いがされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対しては、一人一人が尊厳を保ち生活できるよう支援している。理念の元、身内のように接してはいるが、人生の先輩であり、お客様であるという意識を常に持ち接するよう努めている。	毎月行う研修会にも、年1回プライバシーについて行っている。日頃から、申し送りなどでも、気を付けてほしい事について話をするなど、距離感や尊厳を大切にするように職員間で努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事への参加・外出・入浴等、無理強いはせず、本人の意思確認を行い任せるようにしている。施設内・外でも自己決定ができる場面を多く持つように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースを把握し、その人のペースで生活できるよう支援している。常に本人がどうしたいのかを聞き取りし、確認しながらケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好む服の色やデザインなど把握して購入等の支援を行っている。また、化粧やおしゃれをして楽しめる日を不定期に行い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員も入居者と同じものを摂る。入居者と会話を楽しみながら一緒に食事をしている。また、片付けも一日を通して誰かしら役割として手伝うなど協力して行っている。	盛り付けや食器拭きなど、一緒に作業し、食事の時間を大切にしている。又、敷地内では、家庭菜園を行い、旬の物を味わったり、郷土料理を献立に取り入れるなど、季節を感じられる食卓となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を活用し一人一人の摂取量を把握している。入居者に応じ、好みの飲み物やトロミ剤を使用したり個別に対応している。水分は、毎日個々の摂取量を把握して1500cc程度摂取できるように取り組んでいる。栄養面では、摂取量や栄養バランスが偏らないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、義歯のお手入れを行っている。見守りや介助が必要な入居者には、それぞれ支援している。就寝前には、必ず義歯を外してもらい毎日洗浄剤に浸けて清潔を保持できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄できるよう、排泄チェック表を活用し、入居者の排泄リズムに合わせたトイレ誘導や声かけを実施している。また、排泄状況に合わせて排泄用品を変更し対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が予防できるよう適切な水分摂取量の確保と、起床後に水分を提供したりと取り組んでいる。また、下剤の種類も主治医へ相談しながら本人に合った服用方法を探り対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は、本人から入りたい時間や順番等の要望があった場合には対応できるよう努めている。また、入浴剤を入れ、香りや色も楽しめるよう配慮している。週1回、日頃と違うスタイルで入浴してもらい、楽しむ事ができるように支援している。	入居者の身体状態に合わせた入浴が出来るように、リフト浴も導入している。入浴の順番や時間などは、その日の状態に合わせて、柔軟に対応している。又、週1回同敷地内にある温泉も使用し、入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の生活習慣を把握し、状況を観察することで、休息や安眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬を全職員が把握し、主治医の指示通り服用できるよう支援している。処方に変更や副作用などについての留意点の指示があった時には全職員が把握し観察できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物を干す・たたみなどの役割があり、それぞれに意欲を持ち進んで行うことができている。また、在宅時からの趣味が継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で出来る事を模索し、天気の良い日には外に出て散歩をしたり、個別にドライブ外出を行っている。	敷地内にある畑の作業や花壇の手入れなど、戸外での活動を支援している。又、家族を含めての外出の行事や、お墓参りなど、家族と協力しながら支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者や家族の希望により、金銭を持つことで安心して過ごせるよう支援している。外出した際には、能力に合わせた支払い方法を工夫するなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時には、予め家族から電話をかけることへの了解を得て、希望があった場合は電話をかけることができるよう配慮している。また、家族から電話があった場合には、子機へ繋ぎ居室でゆっくりと会話できるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は、一般住宅と変わらない設備を心がけている。特に教養の空間は、入居者一人ひとりの要望に応じ、心地よく過ごせるよう物音・室温等に配慮している。また、季節感を感じ取れるよう共用空間や居室内へ季節に合った装飾を施している。	居間空間に畳の小上がりがあり、リラックスして過ごせるようスペースを設けている。又、共有空間には装飾を行い、季節を感じ、楽しく過ごせるようにしている。室温についても、定時にチェック、確認し不快にならないような環境に心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間は馴染みの関係ができており、食堂でくつろいで過ごしていることが多い。少しの時間横になりたいと思った時には、小上がり(畳のスペース)で休んだり、一人になりたい時には居室で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人、家族と相談しながらテレビを設置したり、使い慣れたものや装飾品などを自由に持ち込んでもらい殺風景なお部屋にならないように、快適に過ごせるよう空間作りに努めている。	入居時に説明し、家族と相談しながら使い慣れた椅子やタンスなど、自由に持ち込んで頂き、入居者が自宅と変わらずに安心して過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリーとなっている。至る所に手すりが設置され安全に移動できるようになっている。また、トイレの扉は居室とは異なる配色で目印になっている。		